

新規採用教員へのインタビュー



小山 紗枝 こやま さえ

津山市立津山東中学校 教諭
(令和7年度採用)

自己紹介

大学卒業後、1年間常勤講師として中学校に勤務し、今年度から中学校家庭科の教諭として採用されました。2年生と3年生の授業を担当しています。また、3年生の副担任、美術部の顧問も担当しています。

Q 教員を目指した理由を教えてください。

教員を目指すことを決めたのは、高校生の頃です。中学生の頃は建築やデザインなど、ものづくりに関わる仕事にも関心がありました。高校進学時は専門的に学べる高校と迷いましたが、自分のしたいことが今後も広がるかもしれないと思い、普通科に進学しました。高校では、勉強ができて活躍している生徒が多く、将来を考えて時に「自分には何が合っているんだろう」と悩み、自信がもてない時期がありました。そんな時期を過ごす中で、「やりがいを感じられて、地域に貢献で

きる仕事があったらいい」という思いが強くなり、大学（教育学部）への進学を決めました。自分自身が地域に支えられて育ち、地域が好きだったので、その思いを教員として子どもたちに伝えていきたいと思っただけです。また、

Q なぜ中学校の教員になろうと思ったのですか。

実は、大学進学時は小学校教員を目指していました。小学3年生の頃、体の不調や人間関係の不安から、1ヶ月ほど学校を休んでいました。そんな時、当時の担任の先生がクラスメイト全員からの手紙を届けてくれたことで、学校へ行く勇氣を出すことができ、それをきっかけに学校が楽しい場所にな

りました。この経験から、早い段階から子どもたちとかわり、不登校支援にも力を入れていきたいと思いい、小学校教員を目指していました。大学4年生の時の教員採用試験では小学校に出席しましたが、二次試験で不合格となりました。

教員採用試験と同時期に中学校で教育実習を行い、家庭科の教材研究や授業づくりの面白さを感じることがきっかけで、中学校教員に関心をもつようになりました。そして、大学卒業後は玉野市の中学校で常勤講師として勤務する機会をいただきました。もともと小学校教員を志望していたので、中学校（家庭科）の免許は、「自分の役に立つかもしれない」という気持ちで取得を目指しましたが、教育実習や中学校での勤務を経て、家庭科を通して子どもたちの自立する力を育てたいと思うようになりました。

それまで、教員の仕事ができるのか、向いているのか不安な気持ちをもっていました。が、困った時は助けてくださる

先生方に支えられ、「教員としてやっていける」という自信もてるようになりました。今は、中学校教員を選んで良かったと感じています。

Q 教員採用試験の対策について教えてください。

中学校教員を目指す決めてからは、中学校で常勤講師として働きながら、家庭科の勉強を重点的に進めました。実技試験の対策に加え、夏休みの期間や土日を使って筆記の勉強にも取り組みました。

面接試験には苦手意識がありました。が、中学校で勤務する中



で人前で話す機会が増え、経験を積んだことで落ち着いて面接に臨めるようになりました。大学4年生の時は、小学校と中学校とで迷いを抱えながら受験していました。が、中学校での勤務を経験したことで「たとえ結果が出なくても、来年も中学校で受験しよう」と覚悟が固まり、その気持ちが採用につながったと思っています。

Q 授業で大切にしていることを教えてください。

家庭科で学ぶことは、毎日の生活をより良くし、自立して生きていく力につながると考えています。衣食住、消費生活、保育など、扱う分野が幅広く、身近なことにも触れるので、授業を通して自分の興味や好きなことに気づき、将来の夢を見つけてきつかけにしてほしいと思っています。

そのために大切にしているのは、生徒の興味を引き出すことができる授業づくりです。料理や裁縫が苦手な生徒もいますが、苦手だからやらないのではなく、

「これができるようになったら役立つんだ」と気付くことができる授業を心がけています。勉強が得意ではない生徒にとっても、家庭科が「楽しい」と思える時間になり、一人一人の自信につながっていけば嬉しいです。



私自身、中学3年生のときの家庭科の授業がとても印象に残っています。当時、私は建築に興味があり、それを知った先生が「こういう建築があるよ」「この家にはどんな工夫があると思う？」と声をかけてくださり、興味をさらに広げてくださいました。先生がしてくださった面白い授業を参考にしながら、授業づくりに取り組んでいます。

本校には家庭科教員が2名おり、私は2・3年生を担当しています。「やってみよう」と自分で考えた授業に挑戦させていただけの環境にとっても感謝しています。生徒の興味を引き出すことができる授業づくりをこれからも磨いていきたいです。

Q 働く中で大変だったことはありますか。

赴任した当初、生徒から強い言葉を言われたときに、「なんと教員になったんだろう」と落ち込んだことがあります。

それでも、日々関わり続ける中で少しずつ距離を縮めることができました。振り返ると、赴任したばかりでまだよく知らない私と接することに、生徒は不安を感じていたのだと思います。私も生徒の人柄を少しずつ知り、関わり方を工夫することでお互いに理解が深まり、信頼関係を築くことができました。

Q 職場の環境はどうですか。

先生方はいつも温かく声をかけてくださいます。学年団で活



動することが多く、教科ごとに様々な視点から助言をいただいています。授業以外の指導面についても相談でき、安心して働ける環境です。

Q 最後に、ぜひ伝えたいことはありますか。

私自身、教員の仕事が自分ができるのか、向いているのか不安な気持ちをもっていました。が、実際に働く中で自信をもつことができました。また、生徒の成長を間近でみることで、教員になってよかったと思っと思っています。教員の仕事に興味がある方は、ぜひ挑戦してほしいです。